

2015－2016年のムンプス流行に伴う ムンプス難聴発症の全国調査



日本耳鼻咽喉科学会・乳幼児委員会

守本倫子 中川尚志

「半分、青い」のヒロイン

- 1970年代
- 最初ふらつきがあり
- 片方の耳が何も聞こえなくなった。
- こびとが踊っている耳鳴

一般小児科医の認識

両耳難聴になるなんて
知らなかった

片方の難聴だけなら髄
膜炎になるより
は・・・



これは誤り

ムンプス難聴

・一側性(35例35耳)

聾 30例
 高音障害漸傾型 3例
 低音障害型 1例
 水平型 1例

・両側性(2例4耳)

聾 2例4耳

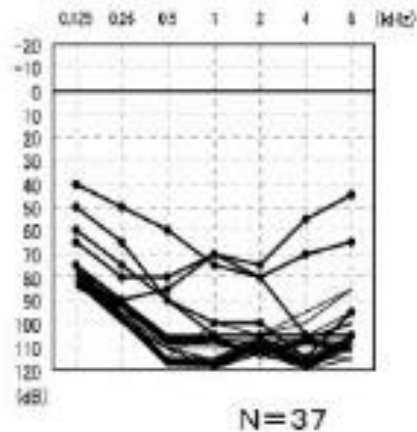


図3 初診時聴力検査成績

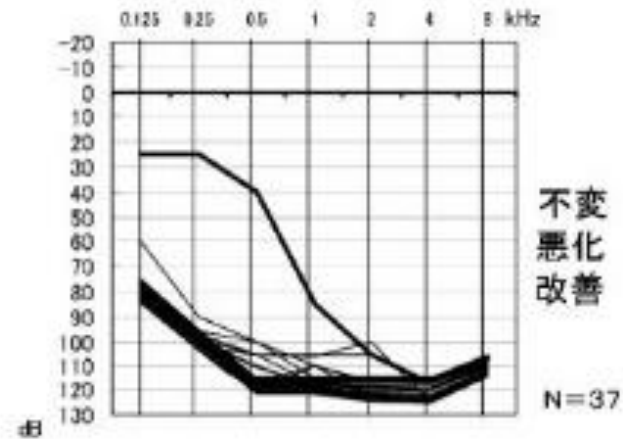


図4 治療後聴力検査成績

人工内耳留置



一側性が多いが、両側性の難聴のこともある。
 ほとんど重度難聴である。

治療予後は悪い。

(水川ら 2011)

ムンプス難聴 頻度

- 20歳以下7400人のムンプス患者のうち7人に難聴が生じた（1000人に1人） 橋本ら2008
- 200-300人に1人 青柳ら1996
- 徳之島にて1191人中2人（600人に1人）
亀之園ら2016

ムンプス難聴の診断基準

(厚生省特定疾患急性高度難聴調査研究班1987年)

1. 確実例

(1) 耳下腺・顎下腺腫脹など臨床的に明らかなムンプス症例で、腫脹出現4日前より腫脹出現後18日以内に発症した急性感音難聴症例

(この場合、必ずしも血清学的検査は必要ではない)

(2) 臨床的にはムンプスが明らかではない症例で、急性高度難聴発症直後から2-3週間後にかけて血清ムンプス抗体価が有意に上昇を示した症例

注1 : (1)においては初めの腫脹側からの日をいう

注2 : (2)において有意とは、同時に同一キットを用いて測定して4倍以上になったものをいう

注3 : 難聴の程度は必ずしも高度でない症例もある

2. 準確実例

急性高度感音難聴発症後3カ月以内にムンプスIgM抗体が検出された症例

3. 参考例 臨床的にムンプスによる難聴と考えられた症例

注1 : 家族・友人にムンプスの罹患があった症例

注2 : 確実例(1)における日数との差があった症例

対象と方法

対象：2015.1.1~2016.12.31までにムンプス難聴と診断された乳幼児から成人まで全年齢層の症例

診断基準

- ①耳下腺や顎下腺が確実に腫脹し、腫脹出現4日前～腫脹後18日以内に発現した急性高度感音難聴症例
- ②急性高度感音難聴発症直後から2-3週間でムンプス抗体価が有意に上昇した症例

急性高度難聴研究班の診断基準より

一次調査

47地方部会からすべての耳鼻咽喉科標榜医療機関に調査票を送付
「期間中にムンプス難聴の患者が受診した・しない」

二次調査

受診したと回答した医療機関に症例についての詳細を調査

結果の流れ

47地方部会



すべての耳鼻咽喉科標榜機関 5565施設

「期間中にムンプス難聴の患者が受診した・しない」

あり



なし

44地方部会3906施設より回答
回答率70%

二次調査

359人のムンプス難聴症例がいた

倫理委員会



症例ごとの調査：めまい、唾液腺腫脹、頭痛、耳鳴の合併症の有無
最終的な難聴の程度、補装具などの必要性



地方部会

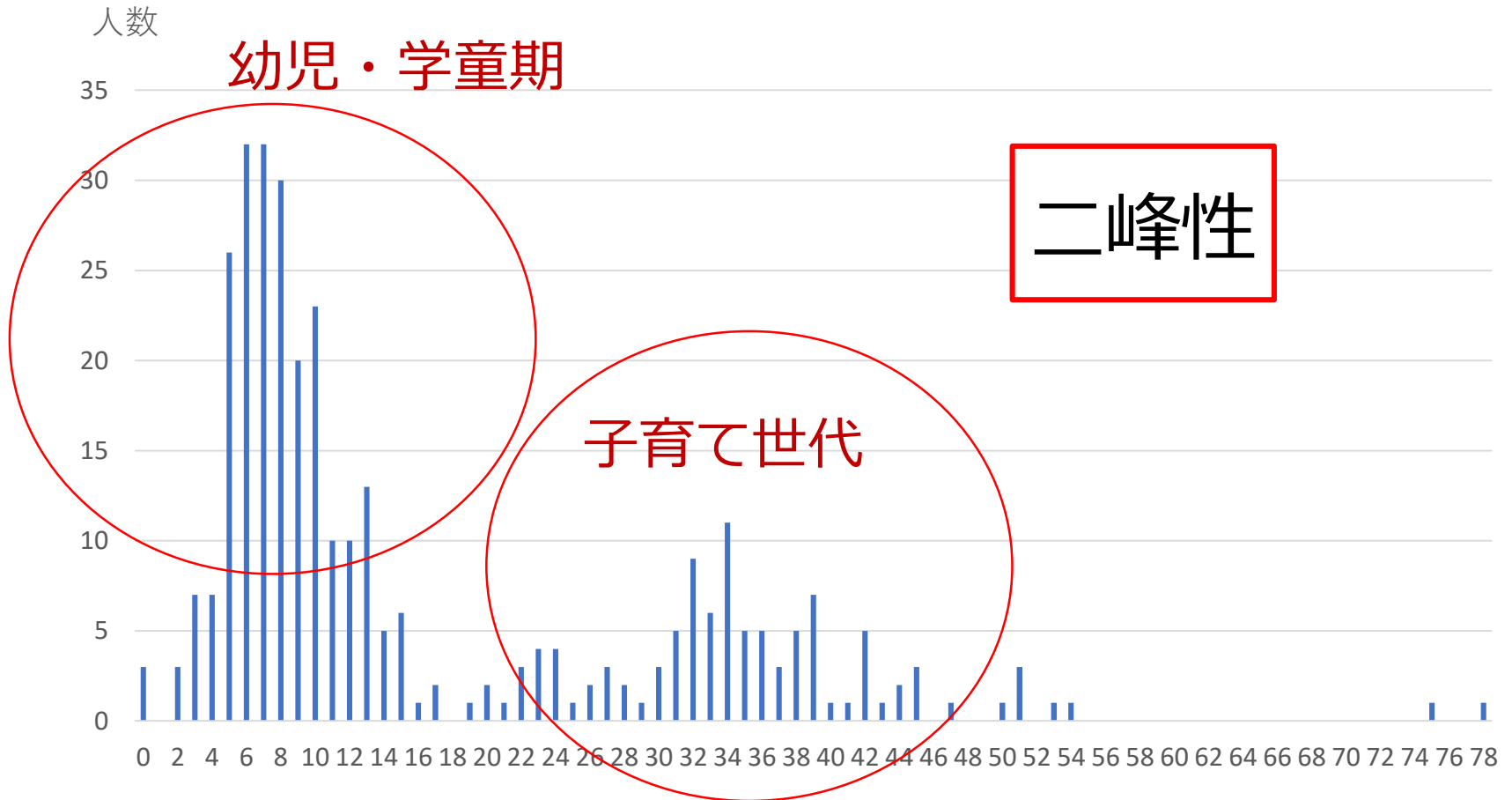


日本耳鼻咽喉科学会

詳細の明らかなムンプス難聴例：335人

年齢分布

予防接種を受けていない子育て世代にもピーク



335例の特徴

性別		(人)
男性	156	46.5%
女性	179	53.5%
罹患耳 (最終)		
一側難聴	320	95.5%
両側難聴	15	4.5%
不随合併症状		
めまい	131	39.1%
耳鳴	142	42.4%
唾液線腫脹	247	73.5%

26.5%は
耳下腺腫脹がない
不顕性感染

検査で判明した
ムンプス難聴例で
4分の1が
ムンプス罹患に
気づかれていなかった

初診時および最終聴力のどちらも判明している 203人について初診時聴力と最終聴力を比較

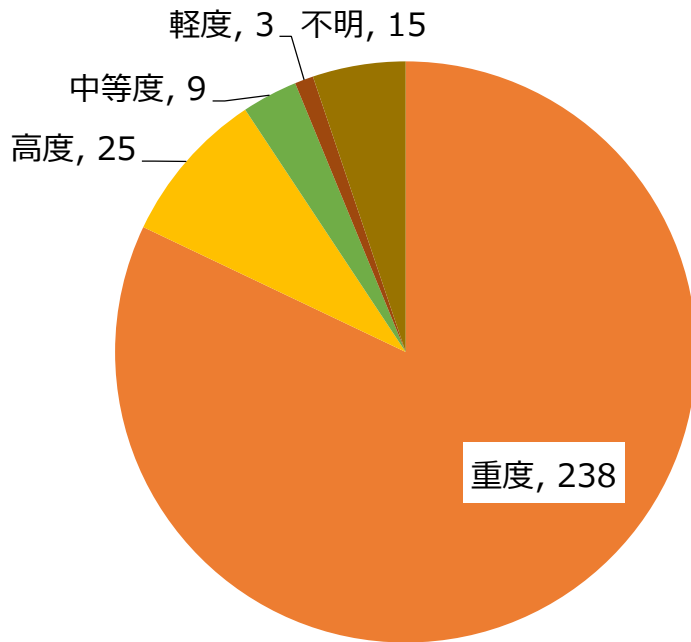
初診時	最終聴力				
	難聴なし (6)	軽度 (3)	中等度 (6)	高度 (12)	重度 (176)
難聴なし(5)	1	1			3
軽度(9)	1		2		5
中等度(28)	3	1	2		22
高度(41)	1		1	10	22
重度(136)		1	1	2	124

54例は悪化？

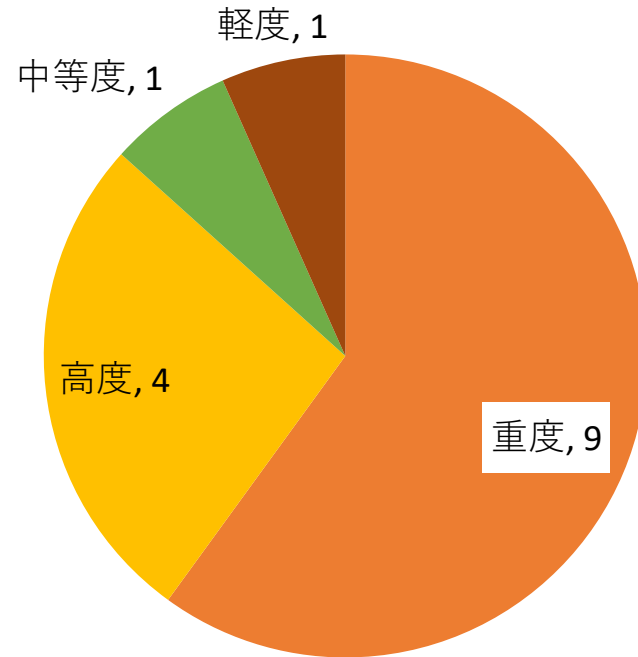
11例が改善？

ほとんどの例で
治療効果無し

最終聴力



一側難聴 290人
高度以上：263人

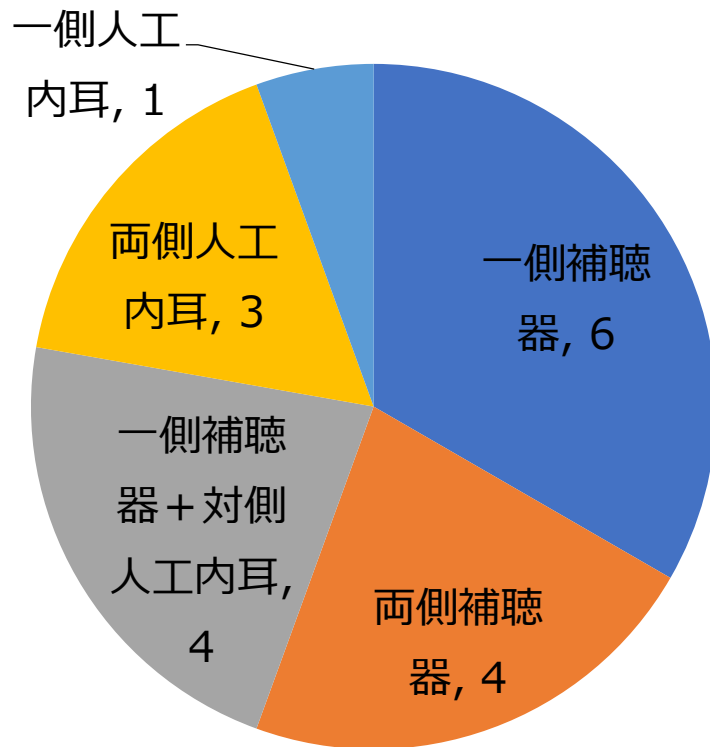


両側難聴 15人 良聴耳
高度以上：13人

片側難聴も判明しているうちの91%は高度以上，82%は重度
両側難聴の良い方の耳で87%が高度以上，重度が60%

どのようにして難聴を補うか？補装具の割合

一側先天性重度難聴 + 対側ムンプス難聴（重度）に
一側補聴器 + 対側人工内耳装用



両側難聴13例 + 一側難聴5例

左外傷性中等度難聴
+ 右ムンプス難聴（重度）
に片側補聴器装用

両側難聴になると補装具は必須

小括

- 2015 – 2016年のムンプス流行に伴うムンプス難聴例の実数調査を行った。少なくとも359人が報告された。
- 幼児期および学童期と育児世代に罹患のピークが認められた。
- 詳細の明らかな335人中305人は難聴として障害が残り、一側難聴263人、両側難聴13人は最終的に高度以上の難聴となった。
- もともと片耳に難聴があった2人も含め、8人は人工内耳植え込み術が必要となった。
- 不顕性感染があるため、症例はもっと多かったと推測される。

片方が聞こえないことで生じる困難

- **方向感の低下** 呼びかけられたときにどこから声が聞こえたのかがわからない。
- **明瞭度の低下** ガヤガヤした騒音下での会話が聞き取れない。

どんな場面で困るのか？

- 休み時間、教室移動、課外授業など、最初から配慮しておくことが困難な場面
- 集団での会話が厳しい→ 1人でいるのが好き？と思われがち。
- 声をかけられて、どこからかかったかわからない。→ 無視したと言われる
- 車を運転していて、バイクがどちら側から来ているのか

ムンプスワクチンにまつわるお母様達の噂

成育医療センターの外来

- 予防接種をうけるより、普通に罹患した方が免疫はつきやすい（からうつしてもらった方がよい）
- 15歳過ぎてから罹患すると合併症（睾丸炎）をおこしやすいので、早いうちに罹患した方がよい、と言われた。
- 予防接種が任意なのは、国が推奨していないからだと思っていた。

まとめ

- 2015-2016年の2年間に少なくとも359人のムンプス罹患による難聴患者がいた。不顕性感染や無回答もいれるともっと多くの患者がいたことが推測される。
- 小児だけではなく、成人しても免疫がないと罹患する。
- 一側だけではなく、両側難聴もあり、多くは重度難聴で治療効果もない。
- 障害による困窮度は、対側が聞こえているために周囲から理解されにくいものがある。
- 予防接種の推奨、定期接種化が唯一の疾患対策となる。

日本耳鼻咽喉科学会としての取り組み

おたふく風邪の予防接種を推奨します



ご存じですか？

1000人に1人

おたふく風邪で耳が聞こえなくなることがあります。
かかった方、全体の約1000人に1人ですが、
難聴だけ治らないことがあります。
稀に両側聞こえなくなることもあります。
でも・・・おたふく風邪による難聴は予防できます。

知っていたら受けていたのに・・・

おたふく風邪の予防接種は受けましたか？

日本耳鼻咽喉科学会は、おたふく風邪（流行性耳下腺炎）
ワクチンの定期接種化を要望します。